



DSHEng4 装置通信エンジン (GEM+GEM300)
起動ファイル、管理情報ファイル設定・編集プログラム
(DshEdit.exe)

操作説明書

2009年7月

株式会社データマップ

文書番号 DSHEng4-09-30308-00



[取り扱い注意]

この資料ならびにソフトウェアの一部または全部を無断で使用、複製することはできません。
本説明書に記述されている内容は予告なしで変更される可能性があります。

Windows は米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

ユーザーが本ソフトウェアの使用によって生じた遺失履歴、(株) データマップの予見の有無を問わず発生した特別損害、付随的損害、間接損害およびその他の拡大損害に対して責任を負いません。

【改訂履歴】

番号	改訂日付	項目	概略
1.	2009.7月	初版	
2.			
3.			
4.			

目次

1. はじめに.....	1
2. プログラムの起動と終了.....	2
3. 装置起動情報ファイルの編集操作.....	3
3. 1 設定対象ファイルの選択と設定開始.....	3
3. 2 装置起動情報編集画面.....	4
4. 装置管理情報ファイルの編集操作.....	6
4. 1 設定対象ファイルの選択.....	7
4. 2 管理情報選択メニュー.....	9
4. 3 情報別編集画面の操作.....	12
4. 3. 1 EC, SV, DVVAL 変数の編集.....	13
4. 3. 2 トレース情報の編集.....	15
4. 3. 3 CE 収集イベント情報の編集.....	17
4. 3. 4 レポート情報の編集.....	19
4. 3. 5 アラーム情報の編集.....	21
4. 3. 6 PP プロセスプログラム情報の編集.....	22
4. 3. 7 FPP 書式付プロセス情報の編集.....	23
4. 3. 8 レシビ情報の編集.....	24
4. 3. 9 スプール情報の編集.....	25

1. はじめに

本マニュアルは、DshGemSet..exe プログラムの操作方法について説明します。

DshGemSet.exe プログラムは、GEM 装置通信エンジン（以下 DSHEng4 と呼びます）ならびに DSHENG3 装置通信エンジンパッケージソフト（以下 DSHENG3 と呼びます）で使用する以下の情報ファイルの編集を行うためのソフトウェアツールです。

- (1) 装置起動情報定義ファイル（拡張子が .cnf のファイル）
 DSHEng4 が装置を管理制御するための情報を定義します。
 例えば、管理する情報の最大数、使用する通信ドライバーのポート、デバイスなどの情報です。
 DSHEng4 と DSHGEMLIB とは定義する情報項目の一部が違いますので、どちらかをコンボボックスで選択した上で操作することになります。
- (2) 装置変数情報定義ファイル（ソースファイルの拡張子.txt, オブジェクトの拡張子 .fil）
 装置変数 (EC, SV, DVVAL)、イベント (CE, REPORT) アラームの ID と内容を定義します。
 DSHEng4 と DSHGEMLIB との間で操作の違いはありません。
.txt のソースファイルから .fil のオブジェクトファイルへのコンパイルを画面上で行うことができます。

定義ファイルは、両方ともテキスト形式のファイルになります。

装置変数情報定義ファイルは、テキスト形式のファイル上に定義しますが、DSHEng4 ソフトウェアに与えられる形式は、コンパイルし、.fil 形式のオブジェクトファイルに変換されたものになります。

例えば、EQINFO.txt で定義された定義ファイルはEQINFO.fil にコンパイルされます。



DshGemSet..exe 実行に必要なプログラムファイルは下表の通りです

番号	ファイル名	備考
1	DshGemSet.exe	編集プログラムです。
2	DshCompile.exe	装置変数情報ファイルをコンパイルするプログラムです。
3	DshEdit.dll	DshGemSet.exe のための DLL です。

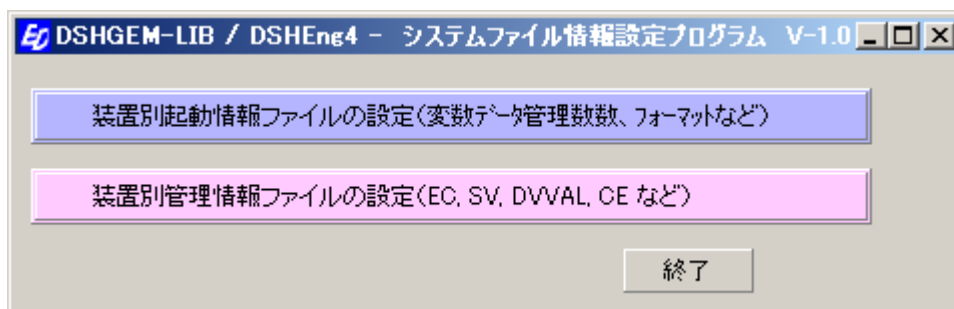
参考資料を下表に示します。

番号	資料（説明書）の名前	備考
1	DSHEng4 起動ファイルコマンド定義仕様書	文書番号 DSHEng4-09-30002-00
2	DSHEng4 装置管理情報定義仕様書	文書番号 DSHEng4-09-30001-00 (内容は DSHGEMLIB と同じです。)

2. プログラムの起動と終了

起動は **DshGemSet.exe** を通常の Windows アプリケーションプログラムと同様に起動します。

起動すると、次の初期画面が表示されます。



この後、起動情報定義ファイルを**起動情報ファイル**、管理情報定義ファイルを**管理情報ファイル**と呼ぶこのします。

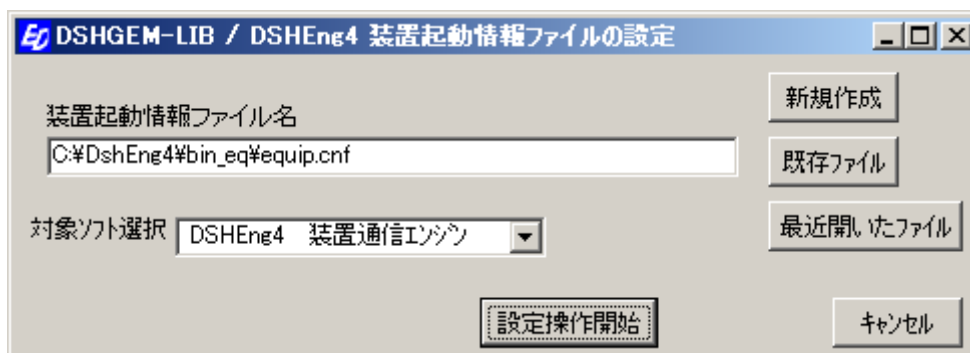
以下、編集したい情報ファイルのメニューをクリックし、それぞれの編集画面を開始します。

終了 ボタンのクリックで操作を終了させることができます。

3. 装置起動情報ファイルの編集操作

3. 1 設定対象ファイルの選択と設定開始

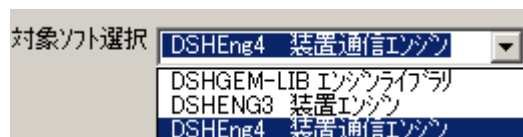
2. の初期画面で **装置起動情報ファイルの設定** が選ばれると、以下の画面が表示されます。



以下の手順で操作します。

- (1) 設定対象とする装置起動情報ファイル名を選択します。
装置起動情報ファイル名として、以前開いたファイルがあれば、最後に開いたファイル名が表示されます。
 - ① 新規にファイルを作成したい場合は、**新規作成** ボタンをクリックします。
この場合、画面の装置起動情報ファイル名は空白になります。
 - ② 既存ファイルの中から選択し、編集したい場合は、**既存ファイル** ボタンをクリックします。
ファイルを開くダイアログ画面がポップアップされますので、開きたいファイル名を選択することになります。
 - ③ 最近開いたファイルの中から選択し、編集したい場合は、**最近開いたファイル** ボタンをクリックします。
最近開いたファイル名リスト画面がポップアップされますので、そのリストから選択します。
 - ④ 最初に装置起動情報ファイル名として表示されたファイルの編集の場合はそのままの状態にしておきます。

- (2) 次に、対象ソフトウェアの選択を DSHEng4 を選択します。



- (3) この後、**設定操作開始** ボタンをクリックし、編集操作を開始します。

3. 2 のメニュー画面に進みます。

- (4) **キャンセル** ボタンをクリックすると初期画面にもどります。

3. 2 装置起動情報編集画面

先に3. 1での対象ソフトウェアの選択によって設定内容が変わりますので、選択されたソフトウェアに対応した編集画面が表示されます。

[DSHEng4 用設定画面]

番号	コメント	設定値	コメントの意味
1	LOG_PATH	c:\dsheng4\log	ログファイル用ディレクトリ
2	LOG_FILE	equip.log	ログファイル名
3	LOG_SIZE	100000	ログファイルサイズ(行)
4	BKUP_PATH	c:\dsheng4\backup	情報バックアップ用ディレクトリ
5	INFO_FILE	c:\dsheng4\bin_eq\eqinfo.fil	GEM定義ファイル名
6	INFO_BACKUP	1	GEM情報バックアップ指定(1 / 0)
7	PP_COUNT	100	プロセッサの最大保存数
8	FPP_COUNT	64	書式付プロセッサの最大保存数
9	RCP_COUNT	200	レジスタの最大保存数
10	CAR_COUNT	80	キャリアの最大保存数
11	CAR_CAPACITY	80	キャリア容量(ウェル枚数)
12	SUBST_COUNT	250	基板の最大保存数
13	CJ_COUNT	32	コントロールジョブの最大保存数
14	PRJ_COUNT	30	プロセッサジョブの最大保存数
15	TRACE_COUNT	28	トレース情報の最大保存数
16	SPOOL_PATH	c:\dsheng4\spool	スプール情報保存ディレクトリ
17	COMM_SIDE	EQUIPMENT	ホスト/装置サイトの指定(HOST/EQUIP)
18	COMM_PORT	1	HSMS通信ポート(DSHDR2のポート)
19	COMM_DEVICE	1	HSMS通信デバイス(DSHDR2のデバイス)
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			

[DSHENG3 用設定画面]

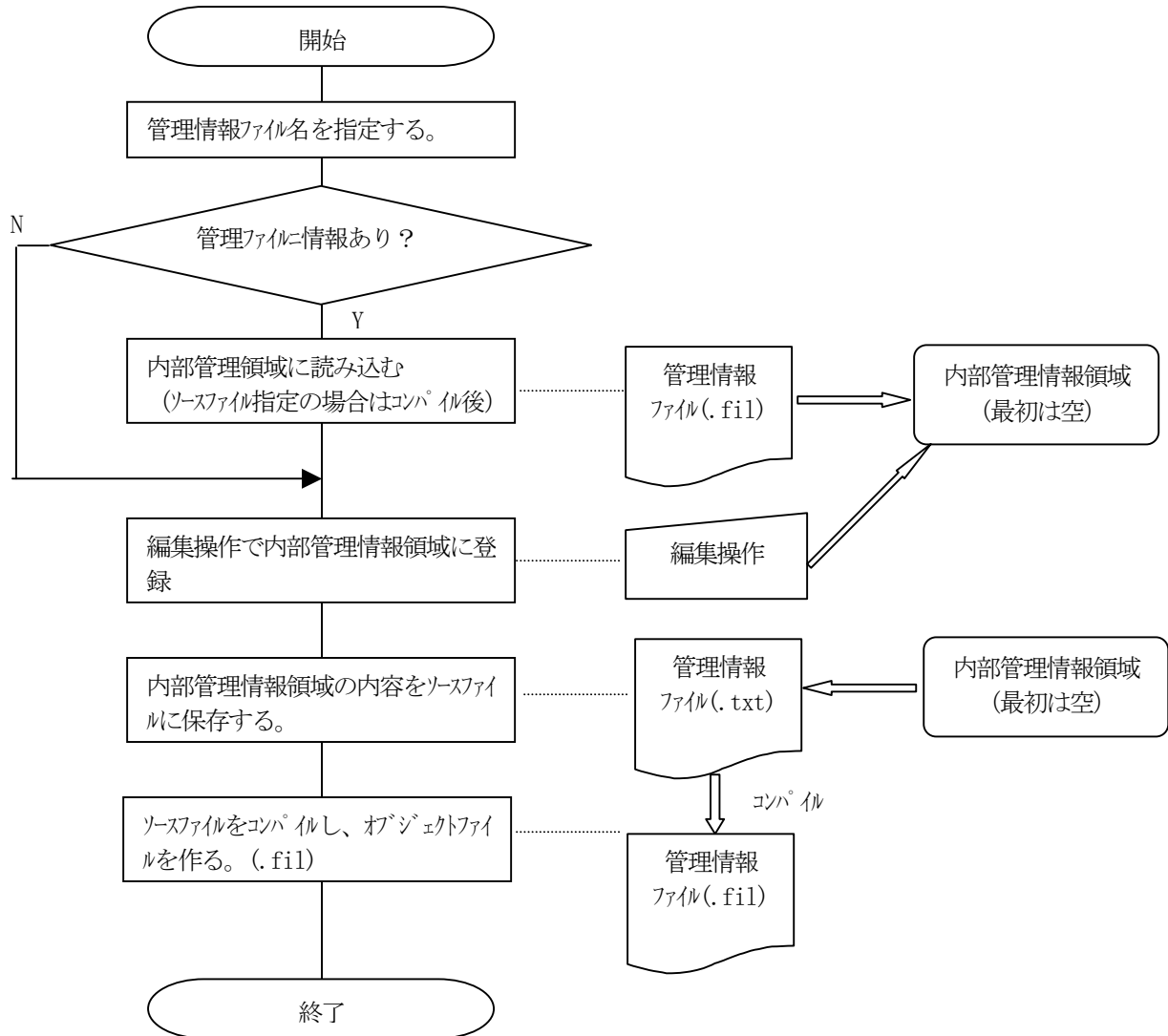
番号	コメント	設定値	コメントの意味
1	ENG_PATH	c:\%DSHeng3%\bin	エンジンディレクトリ
2	ENG_FILE	c:\%DSHeng3%\bin\%DSHeng3%.exe	エンジンディレクトリの実行ファイルのフルパス(full path)
3	BKUP_PATH	c:\%DSHeng3%\backup	情報バックアップファイル保存ディレクトリ
4	SPOOL_PATH	c:\%DSHeng3%\spool	スプールメッセージ保存ディレクトリ
5	LOG_PATH	c:\%DSHeng3%\log	ログファイル保存ディレクトリ
6	SHMFILE	eng3shm.shm	共有メモリファイル名
7	SHMNAME	eng3shm	共有メモリ名
8	COMMDEF	comm.def	通信環境定義ファイル名
9	APPLOG	c:\%dsheng3%\log\%engapp3.log	APP DLL のログファイル名
10	APPLOG_ON	1	APP DLL のログスイッチ(1/0)
11	APPLOG_SIZE	100000	APP DLL のログサイズ(行)
12	ENGLLOG	c:\%dsheng3%\log\%eng3.log	エンジンディレクトリのログファイル名
13	ENGLLOG_ON	1	エンジンディレクトリのログスイッチ(1/0)
14	ENGLLOG_SIZE	100000	エンジンディレクトリのログサイズ(行)
15	INFO_FILE	c:\%dsheng3%\bin\%eqinfo3.fil	装置情報定義ファイル名(.fil)
16	IPC_APP1	eng3_to_app	APP側との通信用IPC名
17	IPC_ENG1	app_to_eng3	エンジン側との通信用IPC名
18	IPC_TIMEOUT	60	通信用IPC間の応答タイムアウト時間
19	PP_COUNT	256	プロセッサの最大保存数
20	FPP_COUNT	256	書式付プロセッサの最大保存数
21	RCP_COUNT	256	レジスタの最大保存数
22	CAR_COUNT	256	キャリアの最大保存数
23	CAR_CAPACITY	50	キャリアの最大容量-ウェル枚数
24	SUBST_COUNT	256	基板の最大保存数
25	CJ_COUNT	32	コンタクトの最大保存数
26	PRJ_COUNT	32	プロジェクタの最大保存数
27	TRACE_COUNT	256	トレース情報の最大保存数
28			
29			

操作は簡単です。以下の順で行います。

- (1) 各コマンドについて、設定したい値をキー入力していきます。
コマンドの意味の欄を参考にしてください。
- (2) 編集操作が終わったら、**保存**、**新規保存**のボタンをクリックして情報を指定ファイルに保存します。
- (3) **エディターで確認** ボタンをクリックすると、メモ帳(notepad.exe)プログラムで起動ファイルの内容を確認することができます。メモ帳でファイルを変更した場合は、一旦閉じてから、最初から編集操作をやり直してください。
- (4) **キャンセル** ボタンのクリックによって初期画面に戻ることができます。

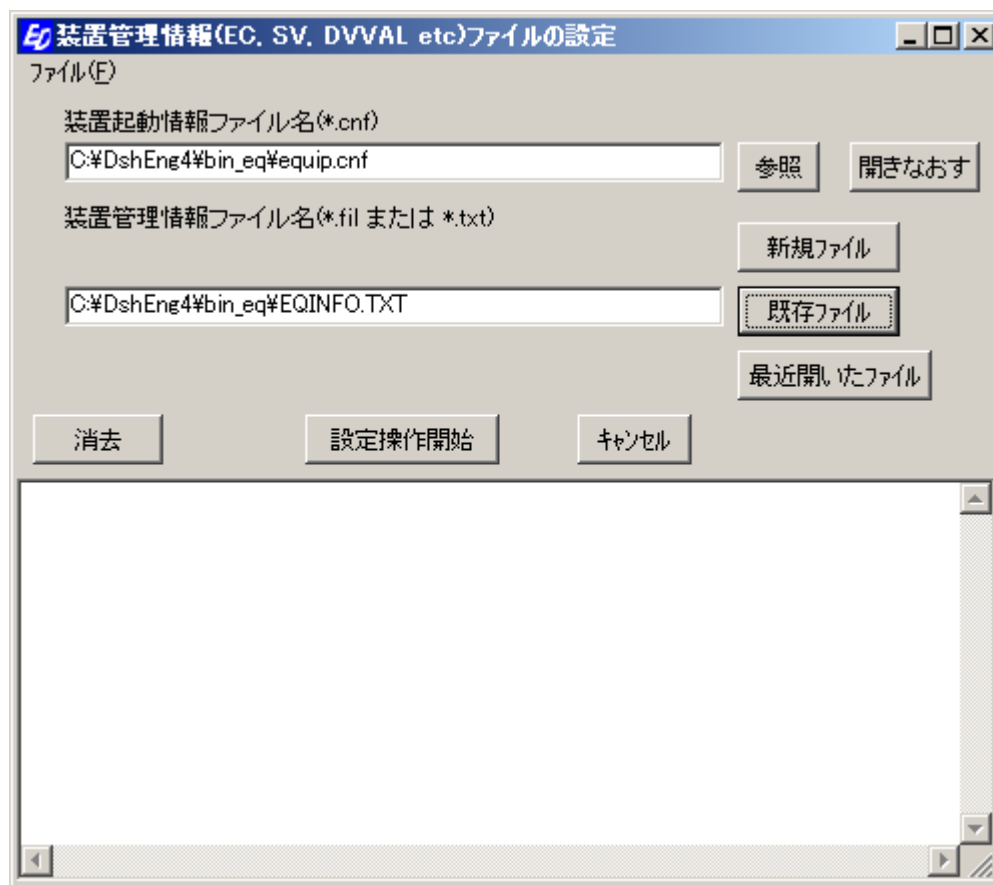
4. 装置管理情報ファイルの編集操作

管理情報の編集操作とファイルの作成は次のフローチャートのように行います。



4. 1 設定対象ファイルの選択

2. の初期画面で **装置別管理情報ファイルの設定** が選ばれると、次の画面が表示されます。



装置別管理情報ファイルの設定には、3. で設定した装置別起動ファイルを指定する必要があります。装置別起動ファイル内のいくつかの情報の管理個数、ファイルパスなどを使用します。

操作は以下の手順で行います。

- (1) 装置起動情報ファイル名の設定を行います。

装置起動情報ファイル名として、以前開いたファイルがあれば、最後に開いたファイル名が表示されます。

- ① 既存ファイルの中から選択し、編集したい場合は、**参照** ボタンをクリックします。

ファイルを開くダイアログ画面がポップアップされますので、開きたいファイル名を選択することになります。

- ② 最近開いたファイルの中から選択し、編集したい場合は、**開きなおす** ボタンをクリックします。

最近開いたファイル名リスト画面がポップアップされますので、そのリストから選択します。

- ③ 最初に装置起動情報ファイル名として表示されたファイルの編集の場合はそのままの状態にしておきます。

- (2) 次に編集対象としたい装置管理情報ファイル名の設定を行います。

装置管理情報ファイル名としては、ソースファイル(.TXT)、オブジェクト(.FIL)のどちらの形式のファイルを指定してもかまいません。

① 新規にファイルを作成したい場合は、**新規作成**ボタンをクリックします。

装置管理情報ファイル名は空白になります。

② 既存ファイルの中から選択し、編集したい場合は、**既存ファイル**ボタンをクリックします。

ファイルを開くダイアログ画面がポップアップされますので、開きたいファイル名を選択することになります。

③ 最近開いたファイルの中から選択し、編集したい場合は、**最近開いたファイル**ボタンをクリックします。

最近開いたファイル名リスト画面がポップアップされますので、そのリストから選択します。

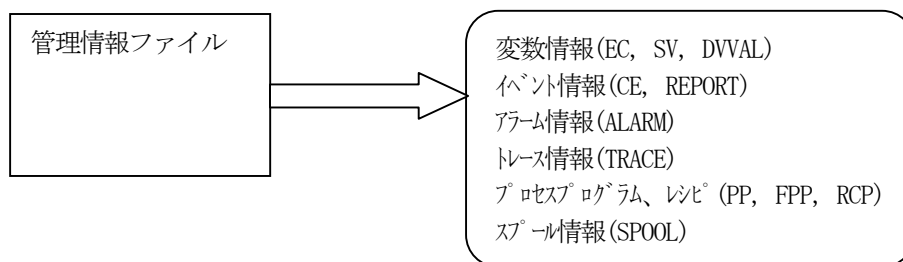
④ 最初に装置管理情報ファイル名として表示されたファイルの編集の場合はそのままの状態にしておきます。

(2) この後、設定操作開始ボタンをクリックし、編集操作を開始します。

ソースファイル名が指定された場合には、まず、コンパイルを行います。

コンパイルの結果、エラーがあった場合は、新規ファイルの作成と同様の扱いになります。

管理情報ファイル名で指定されたファイルが存在し、有効な場合、そのファイルに定義されている情報を内部に取り込みます。取り込まれた情報が編集対象になります。

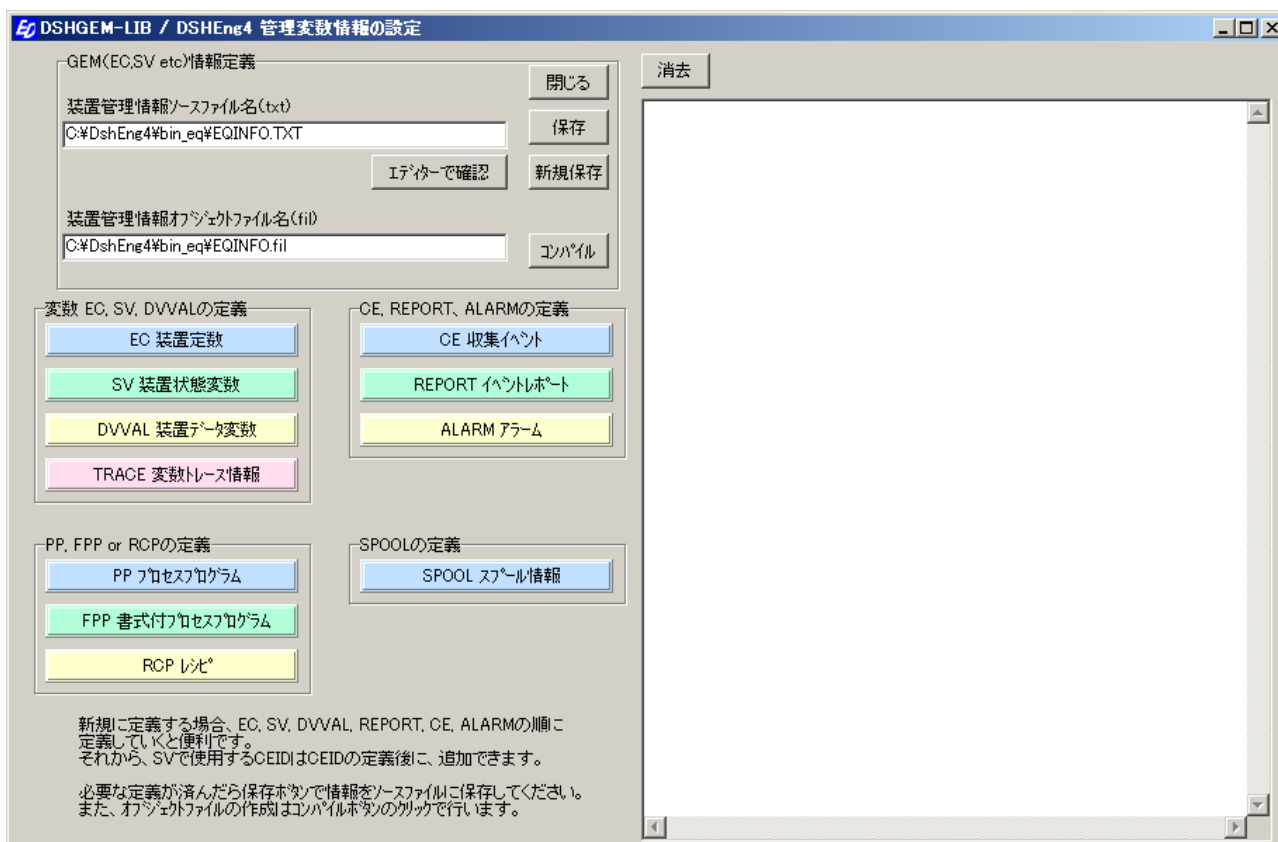


そして、4. 2の管理情報名の選択メニュー画面に進みます。

(3) キャンセルボタンをクリックすると初期画面にもどります。

4. 2 管理情報選択メニュー

次の管理情報選択画面が表示されます。



先の4. 1で指定された管理情報のファイル名であるソースならびにオブジェクトファイル名がそれぞれ、対象ファイル名としてれます。

以下、次のような手順で操作を行います。

- (1) 編集したい情報のボタンをクリックします。
EC 装置定数、SV 装置状態変数などのボタンです。
- (2) 編集したい情報のボタンのクリックの後、4. 3で示す、各情報に対する編集画面が表示されますので、その画面上で、必要な編集を行います。
なお、新規作成の場合は、画面にも表示されていますが、以下の順番に情報の編集を行うと効率よく作成することができます。
 - ① EC, SV, DVVAL の定義
 - ② 次に REPORT, CE, ALARM の順番に行います。
 - ③ 変数トレース情報の必要があれば設定します。
 - ④ プロセスプログラム (PP, FPP、レシピ)、スプールについては、その後行います。
- (3) 上の(1), (2)の編集操作を必要と思われる情報について行います。
- (4) 編集したい情報について作業が終わったら、.TXT ファイルに保存します。
保存ボタンまたは新規保存ボタンのクリックで行います。

保存 ボタンの場合は、画面の装置管理情報ソースファイル名として表示されているファイルに保存されます。

新規保存 ボタンの場合は、保存ファイルに別の名前をつけて保存します。保存ダイアログ画面を使って保存ファイルを指定して保存します。

- (5) 保存したファイルは、**コンパイル** ボタンのクリックによって、DSHeng4 または DSHENG3 プログラムで使用できるのオブジェクト形式のファイルに変換しておきます。コンパイルした結果の内容は、右側のメモ画面に表示されます。エラーがあれば、エラー情報も表示されます。

例えば、正常にコンパイルされた場合の結果は次のように表示されます。

```
C:\DshGemLib\tool\DshCompile.exe start
info file =C:\DshEng4\bin_eq\EQINFO.TXT
End of DshCompile Compilation.
number of error = 0
<DshCompile result >
source file (in) = C:\DshEng4\bin_eq\EQINFO.TXT
object file (out) = C:\DshEng4\bin_eq\EQINFO.fil
.h file (out) = C:\DshEng4\bin_eq\EQINFO.h
.bas file (out) = C:\DshEng4\bin_eq\EQINFO.bas
.vb file (out) = C:\DshEng4\bin_eq\EQINFO.vb
.cs file (out) = C:\DshEng4\bin_eq\EQINFO.cs
```

コンパイルエラーが検出された場合は、エラー表示された内容に従って、エラーを解消するための編集を行ってください。

コンパイルによって、アプリケーションプログラムで使用できる言語別プログラム用ソースファイルが副次的に生成されます。言語別にファイル拡張子が変わります。

- .h : c, C++言語
- .bsa : VB6 (Visual Basic 6.0) 言語
- .vb : VB2008(.net)言語
- .cs : C#2008(.net)言語

これらのファイルには、各情報に与えられた名前 (NAME) とそれに対する ID の値を定めるマクロ定義情報が書込まれます。生成されたソースファイルの一部分ですが、言語別に示します。

① .h ファイル (C, C++)

```
/*-----*/
/* C:\DshEng4\bin_eq\EQINFO.h - DshGemLib / DSHeng4 ID Definition*/
/*-----*/
#define EC_MdlN 1 // 0x00000001
#define EC_SoftRev 2 // 0x00000002
#define EC_InitCommState 4 // 0x00000004
#define EC_InitControlState 5 // 0x00000005
#define EC_InitOfflineSubState 6 // 0x00000006
#define EC_SpoolEnable 7 // 0x00000007
#define EC_ControlMode 80 // 0x00000050
```

② .bas ファイル (VB6.0)

```

Attribute VB_Name = "Eng_Id.bas"
'-----
' C:\DshEng4\bin_eq\EQINFO.bas - DshGemLib / DSHeng4 ID definition
'-----
Public Const EC_MdlN = 1 ' 0x00000001
Public Const EC_SoftRev = 2 ' 0x00000002
Public Const EC_InitCommState = 4 ' 0x00000004
Public Const EC_InitControlState = 5 ' 0x00000005
Public Const EC_InitOfflineSubState = 6 ' 0x00000006
Public Const EC_SpoolEnable = 7 ' 0x00000007
Public Const EC_ControlMode = 80 ' 0x00000050

```

③ .vb ファイル (VB2008)

```

'-----
' C:\DshEng4\bin_eq\EQINFO.vb - DshGemLib / DSHeng4 ID definition
'-----
Public Class Ceng_id
    Public Const EC_MdlN as Integer = 1 ' 0x00000001
    Public Const EC_SoftRev as Integer = 2 ' 0x00000002
    Public Const EC_InitCommState as Integer = 4 ' 0x00000004
    Public Const EC_InitControlState as Integer = 5 ' 0x00000005
    Public Const EC_InitOfflineSubState as Integer = 6 ' 0x00000006
    Public Const EC_SpoolEnable as Integer = 7 ' 0x00000007
    Public Const EC_ControlMode as Integer = 80 ' 0x00000050

```

④ .cs ファイル (C#2008)

```

/*-----*/
/* C:\DshEng4\bin_eq\EQINFO.cs - DshGemLib / DSHeng4 ID Definition*/
/*-----*/
namespace DshApp
{
    class eng_id
    {
        public const int EC_MdlN = 1; // 0x00000001
        public const int EC_SoftRev = 2; // 0x00000002
        public const int EC_InitCommState = 4; // 0x00000004
        public const int EC_InitControlState = 5; // 0x00000005
        public const int EC_InitOfflineSubState = 6; // 0x00000006
        public const int EC_SpoolEnable = 7; // 0x00000007
        public const int EC_ControlMode = 80; // 0x00000050
    }
}

```

- (6) **エディターで確認** ボタンをクリックすると、メモ帳(notepad.exe)プログラムでソースファイルの内容を確認することができます。メモ帳でファイルを変更した場合は、一旦閉じてから、最初から編集操作をやり直してください
- (7) 編集操作が全て終了した後は**閉じる** ボタンをクリックして初期画面に戻ります。
- 編集によって情報が変更されたが、保存されていない場合は、そのまま終了するかどうかの問合せ画面が表示されますので、そこで指示をしてください。

4. 3 情報別編集画面の操作

各情報の編集画面では次の操作ボタンが共通に配置されています。これらのボタンの機能は下表の通りです。

ボタン	機能	備考
<input type="button" value="更新"/>	ID リストの表示更新を行います。	
<input type="button" value="削除"/>	ID 一覧表の中の削除したい ID を選択した後、クリックします。	
<input type="button" value="新規"/>	新規に ID を追加したいときにクリックします。	その後、右側の編集画面に ID、名前、必要な項目の値を設定し、確定します。
<input type="button" value="編集"/>	ID 一覧表の中の編集したい ID を選択した後、クリックします。	その後、右側の編集画面に必要な項目の値を設定し、確定します。
<input type="button" value="確定"/>	編集した内容を内部に取込記憶します。	
<input type="button" value="全てリセット"/>	右側の編集画面上の設定値を全てクリアします。	
<input type="button" value="閉じる"/>	編集を終了し、4. 2の選択メニュー画面に戻ります。	その後、必要ならば、保存ボタンで変更内容を内部に保存します。

注) スプール編集画面では、用意された固有のボタンを使用します。

操作の基本は、左側の変数リストから変数を選択し、左上の編集ボタンのクリックで操作を選び、右側の表内で必要な項目の設定、変更操作をして、その後、ボタンで内部に取り込みます。

ID または名前を変更したい場合は、一旦、当該 ID を削除した後、新規に設定するようにしてください。

4.3.1 EC, SV, DVVAL 変数の編集

4.2の選択メニュー画面でEC(装置定数)、SV(装置状態変数)、またはDVVAL(装置データ変数)に対する編集ボタンをクリックすると次の編集画面が表示されます。下の例はSV 装置状態変数編集のための画面です。

EC, SV, DVVAL の編集画面は同じです。ただ、SV には値が変化したタイミングでCE(収集イベント)を通知させることができますので、そのためのCEIDの項目に対する設定項目が含まれています。

番号	項目名	設定値	説明
1	Format	U?	変数の型名(必須)
2	Size	1	変数配列サイズ(必須)
3	Units	state	単位名(省略可)
4	Min	0	最小値(省略可)
5	Max	2	最大値(省略可)
6	Nominal	0	初期値(省略可)
7	Limit-ID		限界値-ID(数値、省略可)
8	-Low		-下限値
9	-Upper		-上限値
10	Limit-ID		限界値-ID(数値、省略可)
11	-Low		-下限値
12	-Upper		-上限値
13	Limit-ID		限界値-ID(数値、省略可)
14	-Low		-下限値
15	-Upper		-上限値
16	Limit-ID		限界値-ID(数値、省略可)
17	-Low		-下限値
18	-Upper		-上限値
19	CEID	100	値変化時の通知CEID(省略可)
20	CEID		値変化時の通知CEID(省略可)
21	CEID		値変化時の通知CEID(省略可)
22			
23			

Formatの設定値行のセルをダブルクリックするとデータアイテム選択画面がポップアップされます。
Format Aの場合、Nominal値設定の後、Sizeが更新されます。
SV設定画面でCEID行のセルをダブルクリックするとCEID選択画面がポップアップされます。

操作の基本は、4.3で説明したとおりです。

右側の編集画面の表内の設定項目の中で、入力部分のダブルクリックによって、値を選択できるように内部に登録されている設定データの一覧表画面が表示されます。

これらのポップアップ画面を使って設定したい値の行を選択し、**確定**ボタンをクリックすることで簡単に設定操作ができます。

(次ページへ)

データ Format 選択画面

記号	意味
L	リスト
B	2進
BOOL	真理値
A	ASCII
J	JIS-8
I1	1n°付符号付整数
I2	2n°付符号付整数
I4	4n°付符号付整数
I8	8n°付符号付整数
U1	1n°付符号無し整数
U2	1n°付符号無し整数
U4	1n°付符号無し整数
U8	1n°付符号無し整数
F4	4n°付不動小数点
F8	8n°付不動小数点
END	リスト終端(GemLib用)

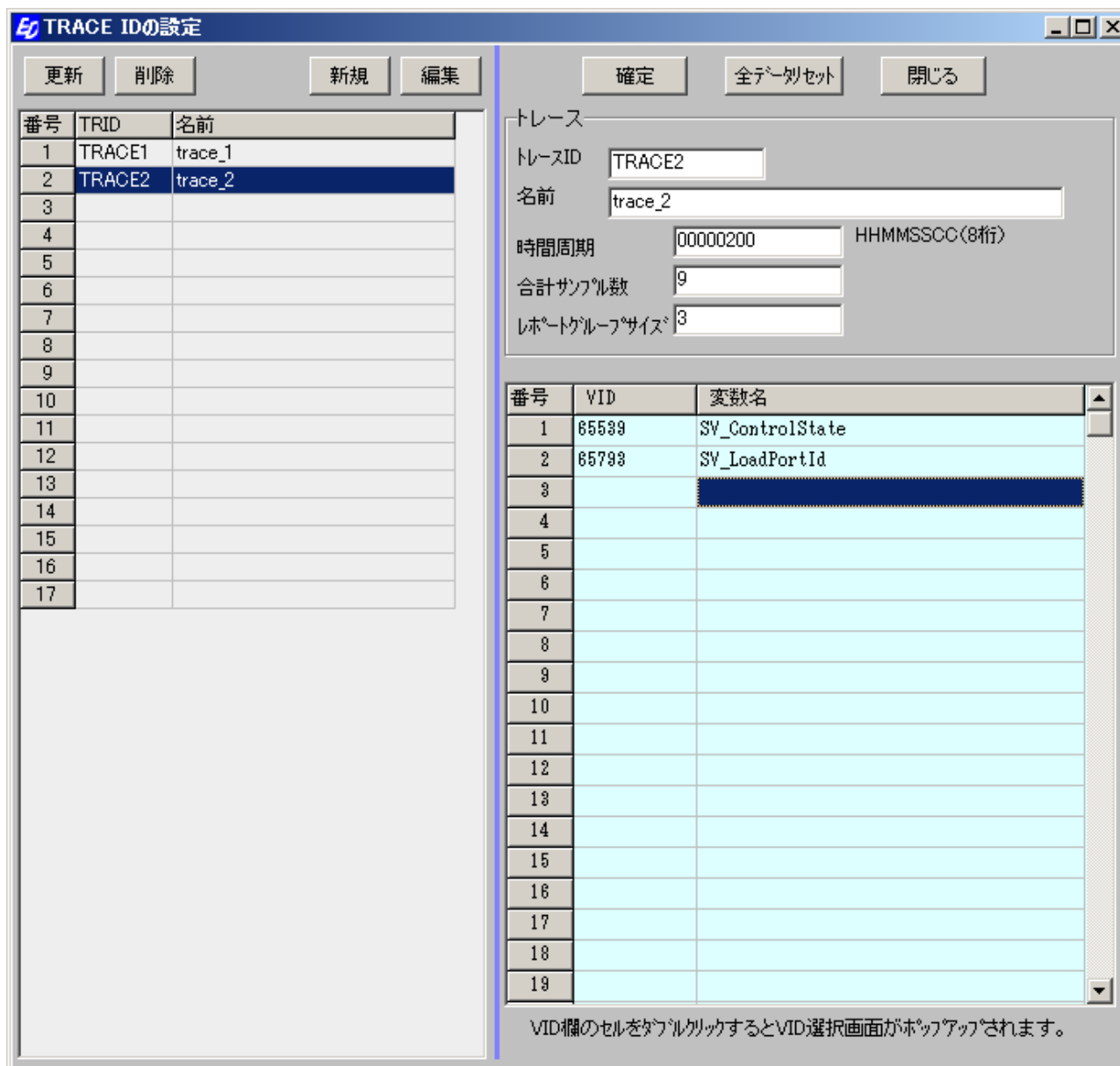
収集イベント CEID の選択画面

番号	CEID	名前
1	2	CE_Communicating
2	999	CE_SpoolDeactivated
3	100	CE_ControlState
4	200	CE_AlarmOn
5	201	CE_AlarmOff
6	2200	CE_PortAccessMode
7	2201	CE_Port1AccessMode
8	2202	CE_Port2AccessMode
9	2203	CE_Port3AccessMode
10	65600	CE_ReadyToLoad
11	65792	CE_LoadTransferBlocked
12	65793	CE_LoadMaterialArrived
13	65794	CE_LoadWaitingForHost
14	65795	CE_LoadAssociated
15	65796	CE_IdVerifyOK
16	65797	CE_OpenFoupp
17	65798	CE_SlotMapVerifyOK
18	65799	CE_SubstAtSource
19	65800	CE_SubstOccupied
20	65801	CE_PrJobPooled
21	65808	CE_CJobQueued
22	65809	CE_CJobSelected
23	65810	CE_ExecBegan
24	65811	CE_PrJobSetup
25	65812	CE_CarInAccess
26	65813	CE_SubstAtWork

VID の中にはレポートにリンクされるものがあります。また、レポートにリスト構造を持たせる必要があるケースがあります。その場合、リストの先頭と終端にはそれぞれ "L" と "END" のフォーマットを有する VID を使用します。リストに与えられた NOMINAL 値がリストにぶら下がる VID の数になります。ただし "END" の VID の数は含まれません。

4.3.2 トレース情報の編集

トレースしたい変数とトレース条件を設定するための画面です。



番号	TRID	名前
1	TRACE1	trace_1
2	TRACE2	trace_2
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		

トレース

トレースID: TRACE2
 名前: trace_2
 時間周期: 00000200 HMMSSCC(8桁)
 合計サンプル数: 9
 レポートグループサイズ: 3

番号	VID	変数名
1	65539	SV_ControlState
2	65793	SV_LoadPortId
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		

VID欄のセルをダブルクリックするとVID選択画面がポップアップされます。

操作の基本は、4.3で説明したとおりです。

右側の編集画面の表内の設定項目の中で、入力部分のダブルクリックによって、値を選択できるように内部に登録されている設定データの一覧表画面が表示されます。

これらの画面で設定したい値の行を選択し、**確定**ボタンのクリックで簡単に設定操作をすることができます。

(次ページへ)

トレース対象のVIDの選択画面

変数 ID選択

変数選択 **SV 状態変数**

番号	VID	名前	初期値
1	65536	SV_Clock	
2	65538	SV_CommunicationState	0
3	65539	SV_ControlState	0
4	65552	SV_CJExecName1	
5	65553	SV_CJExecName2	
6	65554	SV_CJExecName3	
7	65600	SV_ReadyToLoad	Equipment is ready to load a
8	65792	SV_LoadPortTransferSta	2
9	65793	SV_LoadPortId	1
10	65794	SV_LoadCarId	
11	65795	SV_LoadCarIdStatus	0
12	65796	SV_LoadSlotMapStatus	0
13	65797	SV_LoadPortAssociation	0
14	65798	SV_LoadCarAccessStatus	0
15	65799	SV_TransferStatus	0
16	65810	SV_LotId	
17	65811	SV_SubstID	
18	65812	SV_SubstProcState	1
19	65813	SV_SubstState	1
20	65814	SV_CarUsage	
21	65815	SV_CarLocation	
22	65823	SV_SubstList	1
23	65857	SV_UnloadPortId	1
24	65858	SV_UnloadCarId	
25	65859	SV_UnloadCarIdStatus	1
26	65860	SV_UnloadSlotMapStatus	2
27	65861	SV_UnloadPortAssociat	3
28	65862	SV_UnloadCarAccessSta	4
29	65888	SV_AccessModeStatus	0
30	65889	SV_Access1ModeStatus	0
31	65890	SV_Access2ModeStatus	0
32	65891	SV_Access3ModeStatus	0
33	65905	SV_Port1ReservedStatus	0
34	65906	SV_Port2ReservedStatus	0

EC, SV, DVVAL の
選択ができます。

4.3.3 CE 収集イベント情報の編集

CE 収集イベント ID、名前、リンクするレポート ID を設定するための画面です。CE の編集作業は、レポートの編集の後に行う必要があります。

CE 収集イベントの設定

更新 削除 新規 編集 確定 全データリセット 閉じる

番号	CEID	名前
1	2	CE_Communicating
2	999	CE_SpoolDeactivated
3	100	CE_ControlState
4	200	CE_AlarmOn
5	201	CE_AlarmOff
6	2200	CE_PortAccessMode
7	2201	CE_Port1 AccessMode
8	2202	CE_Port2 AccessMode
9	2203	CE_Port3 AccessMode
10	65600	CE_ReadyToLoad
11	65792	CE_LoadTransferBlocked
12	65793	CE_LoadMaterialArrived
13	65794	CE_LoadWaitingForHost
14	65795	CE_LoadAssociated
15	65796	CE_IdVerifyOK
16	65797	CE_OpenFoup
17	65798	CE_SlotMapVerifyOK
18	65799	CE_SubstAtSource
19	65800	CE_SubstOccupied
20	65801	CE_PrJobPooled
21	65808	CE_CJobQueued
22	65809	CE_CJobSelected
23	65810	CE_ExecBegan
24	65811	CE_PrJobSetup
25	65812	CE_CarInAccess
26	65813	CE_SubstAtWork
27	65814	CE_SubstInProcess
28	65815	CE_PrJobProcessing
29	65816	CE_SubstProcessingComplete
30	65817	CE_ProcessingComplete
31	65824	CE_SubstAtDestination
32	65825	CE_PrJobComplete
33	65826	CE_CJobComplete
34	65827	CE_CJobDeleted
35	65828	CE_CloseFoup
36	65829	CE_CarComplete
37	65856	CE_ReadyToUnload

CE 収集イベント

CEID: 2
 CE名: CE_Communicating
 CEED: Enable

番号	レポートID	レポートID名
1	10	RP_Communicating
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		

レポートID欄のセルをダブルクリックするとレポートID選択画面がポップアップされます。

操作の基本は、4.3で説明したとおりです。CEID に設定された順にレポート ID がリンクされます。

右側の編集画面の表内の設定項目の中で、入力部分のダブルクリックによって、値を選択できるように内部に登録されている設定データの一覧表画面が表示されます。

これらの画面で設定したい値の行を選択し、**確定** ボタンのクリックで簡単に設定操作をすることができます。

CEにリンクするレポートIDを選択する画面です。

Report ID選択

確定 キャンセル

番号	RPID	名前
1	10	RP_Communicating
2	100	RP_ControlState
3	1200	RP_PortAccessMode
4	1201	RP_Port1AccessMode
5	1202	RP_Port2AccessMode
6	1203	RP_Port3AccessMode
7	65600	RP_ReadyToLoad
8	65792	RP_LoadPort
9	65856	RP_SubstAtSource
10	65857	RP_SubstReport
11	65870	RP_PrJobReport
12	65871	RP_CJobReport
13	65808	RP_UnloadPort
14	254	RP_TestList

4.3.4 レポート情報の編集

CE(集イベント)にリンクされるレポート ID ですが、この画面ではレポート ID にリンクしたい変数 ID の設定を行います。

番号	RPID	名前
1	10	RP_Communicating
2	100	RP_ControlState
3	1200	RP_PortAccessMode
4	1201	RP_Port1 AccessMode
5	1202	RP_Port2 AccessMode
6	1203	RP_Port3 AccessMode
7	65600	RP_ReadyToLoad
8	65792	RP_LoadPort
9	65856	RP_SubstAtSource
10	65857	RP_SubstReport
11	65870	RP_PrJobReport
12	65871	RP_CJobReport
13	65808	RP_UnloadPort
14	254	RP_TestList
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		

番号	VID	変数名
1	65536	SV_Clock
2	65792	SV_LoadPortTransferStatus
3	65793	SV_LoadPortId
4	65794	SV_LoadCarId
5	65795	SV_LoadCarIdStatus
6	65796	SV_LoadSlotMapStatus
7	65797	SV_LoadPortAssociationStatus
8	65798	SV_LoadCarAccessStatus
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		

レポート名: RP_LoadPort

VID欄のセルをダブルクリックするとVID選択画面がポップアップされます。

操作の基本は、4.3で説明したとおりです。RPID に対し設定された VID の順番にリンクされます。

レポートにリンクされる VID で、リスト構造を持たせる必要がある場合が生じますが、その場合リストの先頭と終端にはそれぞれ "L" と "END" のフォーマットを有する VID を使用します。リストに与えられた NOMINAL 値がリストにぶら下がる VID の数になります。ただし "END" の VID の数は含まれません。

右側の編集画面の表内の設定項目の中で、入力部分のダブルクリックによって、値を選択できるように内部に登録されている設定データの一覧表画面が表示されます。

これらの画面で設定したい値の行を選択し、**確定** ボタンのクリックで簡単に設定操作をすることができます。

レポートにリンクさせる VID の選択画面

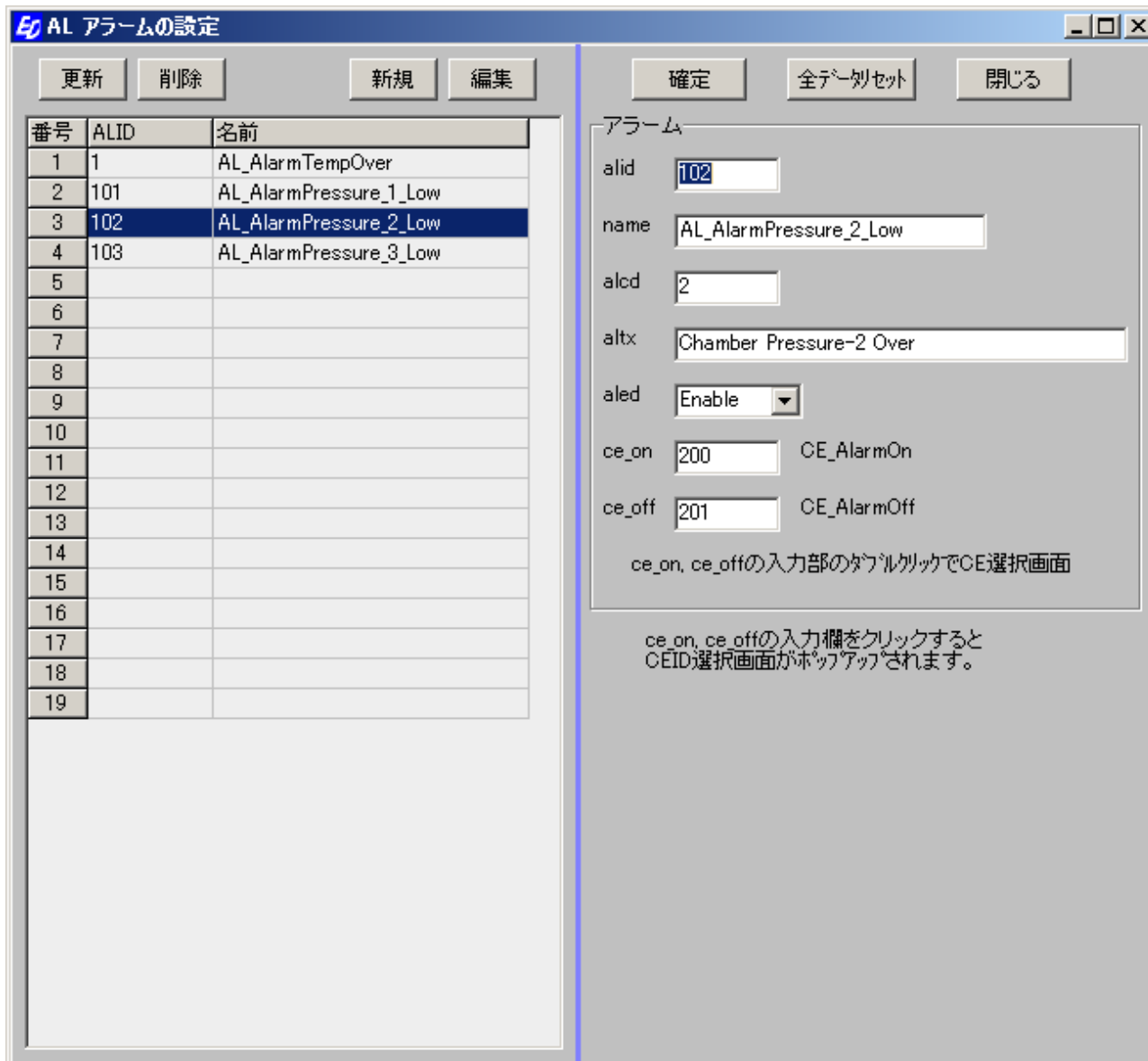
変数 ID 選択

変数選択: SV 状態変数 確定 キャンセル

番号	VID	名前	初期値
1	65536	SV_Clock	
2	65538	SV_CommunicationState	0
3	65539	SV_ControlState	0
4	65552	SV_CJExecName1	
5	65553	SV_CJExecName2	
6	65554	SV_CJExecName3	
7	65600	SV_ReadyToLoad	Equipment is ready to load a
8	65792	SV_LoadPortTransferSta	2
9	65793	SV_LoadPortId	1
10	65794	SV_LoadCarId	
11	65795	SV_LoadCarIdStatus	0
12	65796	SV_LoadSlotMapStatus	0
13	65797	SV_LoadPortAssociation	0
14	65798	SV_LoadCarAccessStatus	0
15	65799	SV_TransferStatus	0
16	65810	SV_LotId	
17	65811	SV_SubstID	
18	65812	SV_SubstProcState	1
19	65813	SV_SubstState	1
20	65814	SV_CarUsage	
21	65815	SV_CarLocation	
22	65823	SV_SubstList	1
23	65857	SV_UnloadPortId	1
24	65858	SV_UnloadCarId	
25	65859	SV_UnloadCarIdStatus	1
26	65860	SV_UnloadSlotMapStatus	2
27	65861	SV_UnloadPortAssociat	3
28	65862	SV_UnloadCarAccessSta	4
29	65888	SV_AccessModeStatus	0
30	65889	SV_Access1ModeStatus	0
31	65890	SV_Access2ModeStatus	0
32	65891	SV_Access3ModeStatus	0
33	65905	SV_Port1ReservedStatus	0
34	65906	SV_Port2ReservedStatus	0

4.3.5 アラーム情報の編集

アラーム ID、名前、ALCD、ALTXなどを編集し、登録します。



AL アラームの設定

更新 削除 新規 編集 確定 全データリセット 閉じる

番号	ALID	名前
1	1	AL_AlarmTempOver
2	101	AL_AlarmPressure_1_Low
3	102	AL_AlarmPressure_2_Low
4	103	AL_AlarmPressure_3_Low
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		

アラーム

alid

name

alcd

altx

aled

ce_on CE_AlarmOn

ce_off CE_AlarmOff

ce_on, ce_offの入力部のダブルクリックでCE選択画面

ce_on, ce_offの入力欄をクリックすると
CEID選択画面がポップアップされます。

aled 当該アラーム ID の有効性を指定します。Enable か Disable かをコンボボックスで選択します。

ce_on、ce_off は、アラーム通知のタイミングで通知する収集イベント ID を指定することができます。

ce_on、ce_off の入力欄をダブルクリックすると、4.3.1の変数の編集時と同様にイベント ID 選択画面がポップアップされます。

4.3.6 PP プロセスプログラム情報の編集

プロセスプログラムの ID, 名前, PPBODY の編集を行い、登録します。
(メッセージ S7F3, F5 を使用するシステムに適用されます。)

番号	PPID	名前
1	PP-1111	pp_1
2	PP-2222	pp_2
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		

更新 削除 新規 編集 確定 全リセット 閉じる

プロセスプログラム

ppid PP-2222

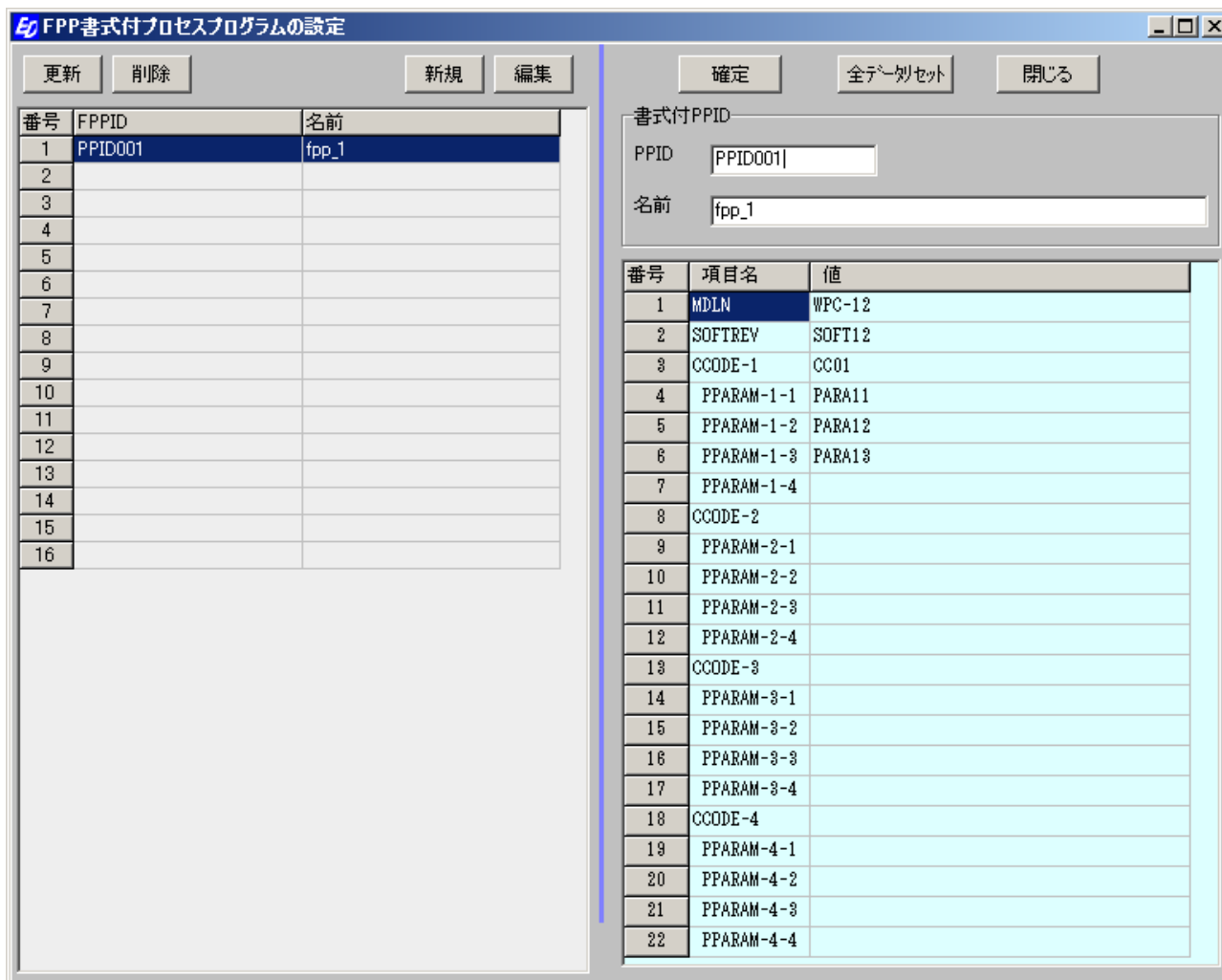
name pp_2

ppbody PPBODY_

操作の基本は、4.3で説明したとおりです。

4.3.7 FPP 書式付プロセス情報の編集

書式付プロセスプログラムの編集を次の画面操作で行います。
 (メッセージ S7F23, F25 を使用するシステムに適用されます。)



番号	FPPID	名前
1	PPID001	fpp_1
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

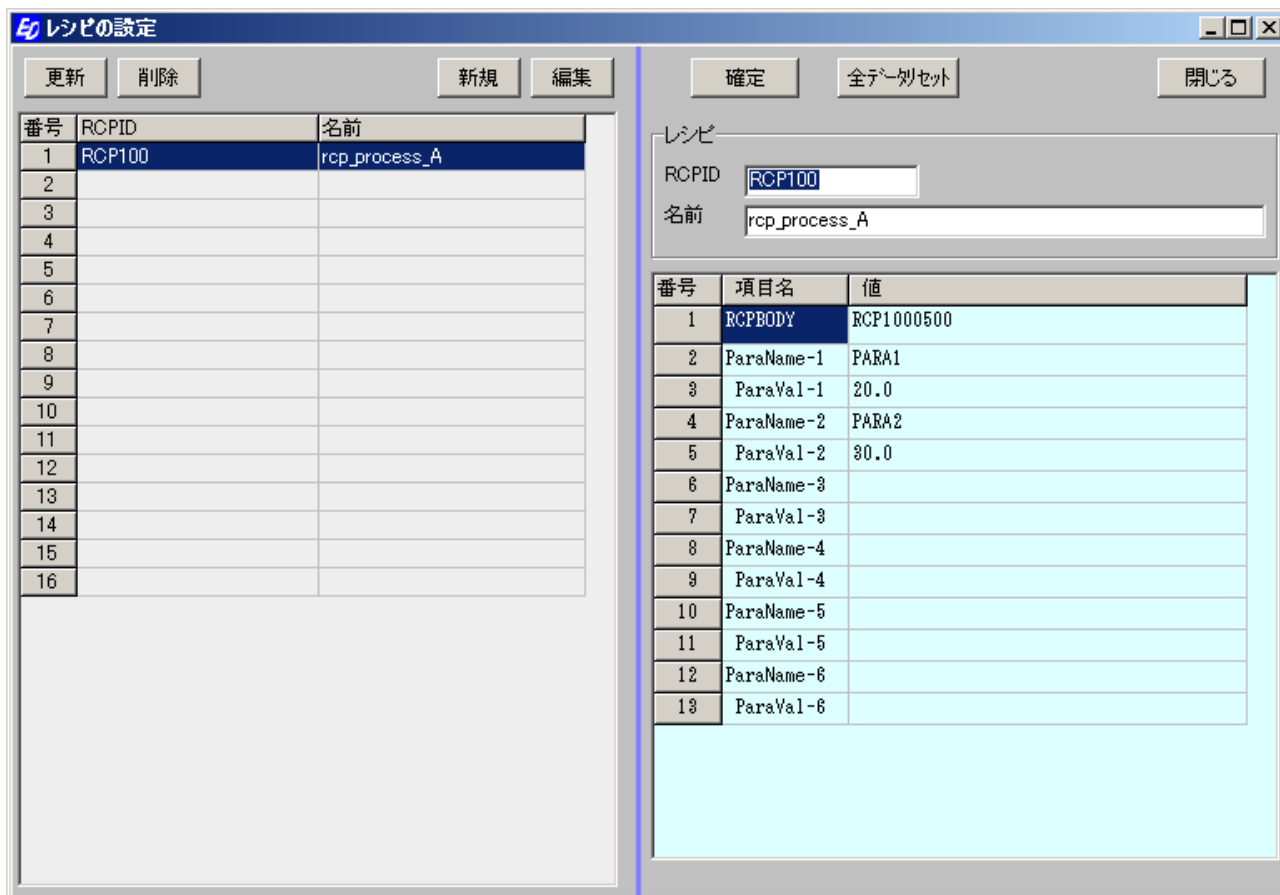
番号	項目名	値
1	MDLN	WPC-12
2	SOFTREV	SOFT12
3	CCODE-1	CC01
4	PPARAM-1-1	PARA11
5	PPARAM-1-2	PARA12
6	PPARAM-1-3	PARA13
7	PPARAM-1-4	
8	CCODE-2	
9	PPARAM-2-1	
10	PPARAM-2-2	
11	PPARAM-2-3	
12	PPARAM-2-4	
13	CCODE-3	
14	PPARAM-3-1	
15	PPARAM-3-2	
16	PPARAM-3-3	
17	PPARAM-3-4	
18	CCODE-4	
19	PPARAM-4-1	
20	PPARAM-4-2	
21	PPARAM-4-3	
22	PPARAM-4-4	

操作の基本は、4.3で説明したとおりです。

4.3.8 レシピ情報の編集

レシピの編集を次の画面操作で行います。

(メッセージ S15F13, F17 などを使用するシステムに適用されます。)



レシピの設定

更新 削除 新規 編集 確定 全データリセット 閉じる

番号	RCPID	名前
1	RCP100	rcp_process_A
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

レシピ

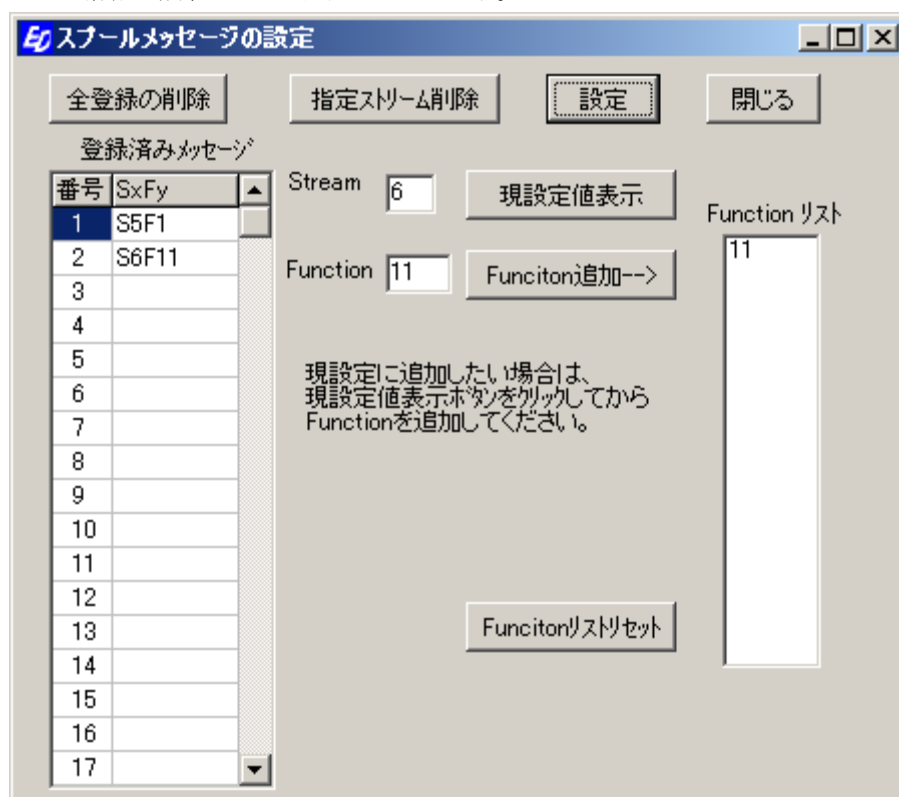
RCPID: RCP100
名前: rcp_process_A

番号	項目名	値
1	RCPBODY	RCP1000500
2	ParaName-1	PARA1
3	ParaVal-1	20.0
4	ParaName-2	PARA2
5	ParaVal-2	30.0
6	ParaName-3	
7	ParaVal-3	
8	ParaName-4	
9	ParaVal-4	
10	ParaName-5	
11	ParaVal-5	
12	ParaName-6	
13	ParaVal-6	

操作の基本は、4.3で説明したとおりです。

4.3.9 スプール情報の編集

スプール情報の編集はつぎの画面を使用します。



本画面は他の情報画面の操作とは違いますが、各ボタンの機能は以下の通りです。

ボタン	機能
全登録の削除	内部に登録されてる全スプール情報を削除します。
指定ストリーム削除	Stream に指定されたストリームのスプール情報を削除します。
設定	Stream で指定され Function リストに表示されているスプール情報を内部に登録します。
閉じる	編集を終了し、4.2の選択メニュー画面に戻ります。
現設定値表示	Stream で指定されたストリームの現設定値を Function リストに表示します。
Function 追加-->	Function に設定されたファンクションを Function リストに追加します。
Function リストリセット	Function リストの内容を全て消去します。

なお、設定を行うと、そのとき Stream に指定されているストリームの登録情報が一旦削除され、新規に Function リストに表示されているメッセージがスプールメッセージとして登録されます。